

# 量産と安定品質を両立する上で必須の1台 圧倒的な生産能力を誇るColorado M5の稼働安定性

大型印刷のパイオニアとして名高い、キングプリンティング。オフセットと、インクジェットともに黎明期から国内でいち早く導入し、長年の稼働経験で培ってきた色の再現力を強みとする。色見本に合わせた忠実な出力はもちろん、実際の大きさを掲出した際に印象が変わらないよう精細に調整を図るなど、大型印刷ならではの独自の技術に信頼を寄せる顧客は多い。

2022年2月、光弘祐紀氏が取締役社長に就任してからは、営業職を2倍の28人にまで増員するなど、営業力の底上げへ注力。主力の商業印刷だけでなく、サイン&ディスプレイ領域での事業拡大を図ってきた。拠点も、大阪本社と東京支社に加え、新しく名古屋と福岡に支社

展開。国内4大都市に留まらず、台湾に次ぐ海外2拠点目としてタイに現地法人を設立し、日系企業のグローバル展開をプリントサービスで後押し。国内外で、エリアごとに新規案件の獲得を目指すとともに、ネットワークとして連携したサービスの提供に努めてきた。結果、過去3年で売上高は160%成長を遂げている。

これに伴い、仕事量も著しく増加する中、新しい主力機として選ばれたのがキヤノンプロダクションプリンティングシステムズのUVgelインク搭載プリンター「Colorado M5」だ。2度の増設を重ね、2025年12月現在は合計6台がフル稼働を連日続けるという。ここからは、同機に寄せる評価や期待感について、光弘社長に話を聞く。



を超えてRGBに近い色域の印刷も可能になっています。しかし、そこまで求める顧客は、正直多くないのです。Japan Colorの色に準拠する上では、Colorado M5の色域がベストで、かつ面内色差も少ないと評価しています。オフセットとインクジェットを使い分けている当社としては、色域の広さよりも均一な仕上がりを大切にしたいですからね。

## ——導入後の総評をお願いします

Colorado M5は、インク受理層が不要なのは無論、素材を選ばずに様々なメディアへ適応できると実感しています。特に、エコに関連する素材は必ずしもインクジェットに対応しているわけではないため、同機によって近年高まる顧客ニーズへ柔軟に対応できると期待しています。

営業の視点で見ると昨今は、顧客に「こんな印刷ができます」と話しても売れる時代ではないです。顧客の潜在需要を掘り起こし、データ制作から物流に至るまでの複合的なソリューションを、正確に実現する必要があります。このためにはプリントにおいて、量産と安定品質の両立が絶対条件なのです。そういった必然性から、Colorado M5の果たす役割は大きいと考えています。

実は、さらに3台増やそうと既に場所も押さえているんです。1拠点で9台は国内外で最大規模と聞いています。言葉を尽くすより、増設を重ねている点にこそ、Colorado M5に寄せる当社の期待感が伝わるのではないのでしょうか。

## 月間生産量は圧巻の「2万㎡超」 国内外で最大規模となる9台体制も視野に

重視しました。従来できなかったことが特別にできる、飛躍的に画質が高いなどの飛び抜けた特徴よりも、堅実で信頼性の高い製品とサポートを追い求めた結果なんですよ。

## ——具体的な性能評価はいかがでしょう？特に、稼働安定性について聞かせてください

プリントスピードは、1.6m幅のミドルレンジ機としては最速で、同クラスで肩を並べる生産機はないと考えています。当社では、合成紙を最も使用しているため、このプリントを全て担ってもらっています。主に、ポスターやタペストリーなどの店内装飾物を出力していますね。1日の生産量としては、1台で90m巻きのロールを2本消費できることから、6台で合計1000mは回せる計算となります。ほぼフル稼働で毎日動かしている点を考えると、1カ月で2万㎡は下らないですね。加えて、インクの消費量も既設機に比べて、20%前後の削減が図れているのも嬉しい

点に挙げられます。

実際に使ってみると、稼働安定性は抜群だと頷けます。6台を抱えているものの、無人で回していても何ら不安はないです。1年近く稼働していますが、現場からも扱いやすいと聞いています。それに、この生産量で導入から大きなマシントラブルがないんですよ。フル稼働でも筐体が揺れたり、ボルトも抜けたりしない、堅牢性にこだわった設計だと実感しています。

## ——4色機ながら色の再現性も評価されていますね

そうですね。当社では2010年にJapan Colorの標準印刷認証を取得し、この基準値に準拠した色を顧客に提供してきました。ただ、大判プリンターの性能が成熟した現在、特に多色機はJapan Colorの範囲

したが、4色機でありながら色域は十分なレベルだと評価しました。

## ——その後、実際にどのような流れで導入が決まったのでしょうか？

当社では大型印刷を長年強みとしてきましたが、近年はオフセットのような規格感で、多品種大口の案件が顕著に増えています。まとまった数量ではあるものの、それぞれ意匠が少しずつ違うような印刷物ですと、やはりインクジェットに頼る必要があります。そうした時に、生産性が重要なポイントに挙げられますよね。

特に2025年は、仕事量が対前年比で130%を上回る想定で、設備投資も欠かせなくなっていました。しかし、これからは労働環境を考慮すると溶剤ではない。とはいえ、ラテックスはメディアが限定されやすく、インクの耐擦過性もネックに。結果、UVで生産性を追い求めたところ、最もバランスの取れたColorado M5

の一択となっていきましたね。2024年12月の2台を皮切りに、2025年2月に2台、さらに追加で9月に2台と合計6台を導入しました。

## ——なぜ、この短期間で追加導入を重ねたのでしょうか？

やはり、プリントスピードですよ。Colorado M5は既設機に比べて2倍の生産性が確保できるだけでなく、筐体サイズもあまり変わらず設置スペースを取らないんです。その上、4色機ながら色の再現性に優れているため、導入当初から様々な案件で積極的に活用してきました。この結果として、顧客からの支持も得られたため、主力機とすることを決定し、増設を重ねました。

Colorado M5は、優れた生産性のもとより、稼働安定性も両立していると評価しています。そして、キヤノンというメーカーに対する信頼ですよ。私は量産をする上で、そこを最



取締役社長 光弘祐紀氏

## ——まず、導入前のColorado M5に対する印象から聞かせてください

ドイツで開催された国際展示会「FESPA Global Print Expo 2023」で、初めて実機を確認しました。キヤノンらしい格好良いシンプルな筐体で、透明のアクリルカバーでキャリッジを覆っている点や、ロールをトレーにセットする構造など、業務用っぽさを感じさせない印象を持ちましたね。実際のサンプルも手に取りま

## キヤノンマーケティングジャパングループ

キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社  
マーケティング統括本部 商品企画本部 商品企画部 TEL. 03-6719-9642

